

もりおか 中津川サケ物語



ふるわとの三

毎年、秋になると盛岡ではたくさんの人々が橋の上から中津川をのぞきこむ。サケのお母さん、お父さんが帰ってくるのを待つてくれるんだ。

北上川の河口から、およそ2百キロメートル。傷だらけの体になって、それでも必死になつて帰つてくるんだよ。自分の生まれ育ったこの川に、卵を生んで、自分の命を子供たちにつなぐためだね!

「おかえりなさい」

「よく帰ってきたね」

盛岡の人々は、その言ひで迎えてくれる。

「ここがあなたのふるさとよ」

中津川は美しい流れで語りかけてくれる。



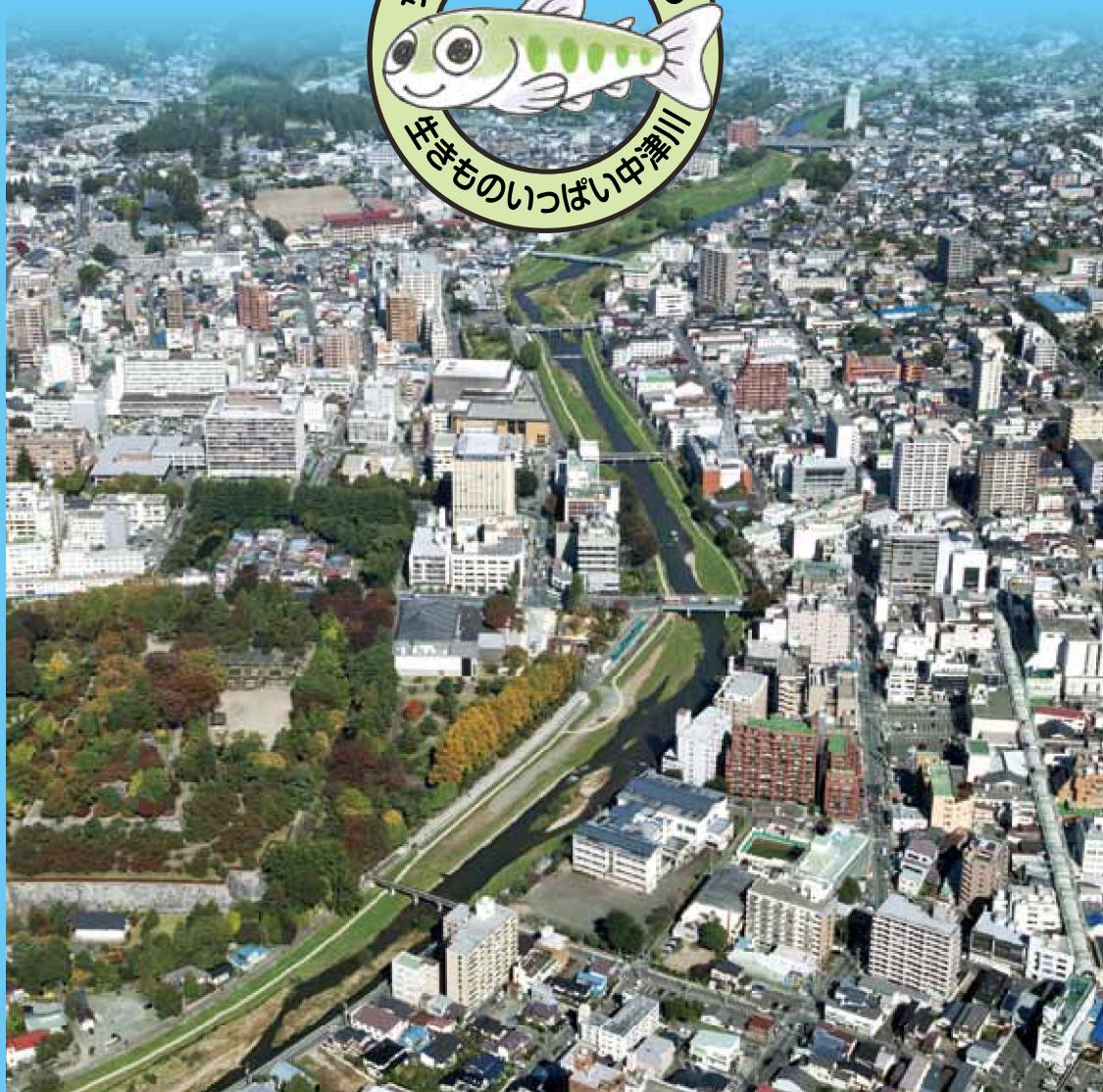
中津川では秋になると、川沿いに「サケのぼり」が設置されます。帰ってきたサケを迎えるため、また、そのことを広く市民や観光客のみなさんに知らせるためです。

お問い合わせ

盛岡地区かわまち勉強会事務局

担当／国交省岩手河川国道事務所工務第一課
TEL: 019-624-3198(直通)

2020.7



① ボクのふるさと中津川

なかつがわさん
ボクは「中津川左門」といいます。
友達は「サモンくん」と呼びます。
みなさんもそう呼んでくださいね。



◆中津川に架かる橋◆



◆サケの主な産卵場所◆

0 500m

●サケや中津川に関する資料

◆サケの生態について◆

- ・原色日本淡水魚類図鑑（保育社の原色図鑑 32）宮地 伝三郎（1976）保育社
- ・日本の淡水魚（山溪カラー名鑑）川那部 浩哉ほか（2001）山と渓谷社
- ・サケ・マス魚類のわかる本 井田 斎（2000）山と渓谷社
- ・サケはなぜ海に下ってまた川に帰ってくるか 生田和正（1997）
- ・生物コーナー 化学と生物 日本農芸化学会 Vol. 35. No. 9, p650-p655 学会出版センター
- ・サケは海から贈り物（2016）一般社団法人 本州鮭鱒増殖振興会
- ・（財）環境科学技術研究所 http://www.ies.or.jp/publicity_j/mini_hyakka/07/mini07.html

◆サケと中津川について◆

- ・北上川の魚とり 北上市立博物館（1982）
- ・北上川（岩手の地誌、第2部）アイ・ビー・シー開発センター編（1975）岩手放送、アイ・ビー・シー開発センター
- ・岩手もりおか中津川の旅 遠藤雄三他編著（2010）盛岡出版コミュニティー
- ・鮭への恋文 飛澤茂美（2014）岩手自分史発行センター
- ・雫石町歴史民俗資料館 展示物（サケ鉤）

◆中津川の昔の様子について◆

- ・あの日あの時の盛岡—昭和レトロの世界—（2011）もりおか歴史文化館収蔵
- ・図説 盛岡四百年 下巻（II）（1992）郷土文化研究会
- ・盛岡・紫波今昔写真帖 森ノブ監修（2007）郷土出版社

●中津川やサケに関する情報先

国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所 工務第一課	盛岡市上田 4-2-2 019-624-3198 (直通) http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/
盛岡市役所 観光課	盛岡市内丸 12-2 019-613-8391 (直通) http://www.city.morioka.iwate.jp/index.html
岩手県庁 水産振興課／河川課	盛岡市内丸 10-1 019-629-5818 (水産振興課) 019-629-5901 (河川課) https://www.pref.iwate.jp/index.html
NPO法人 もりおか中津川の会	盛岡市下ノ橋町 7-36 http://www.u-keikaku.com/kawa/
一般社団法人 いわて流域ネットワーキング	盛岡市安倍館町 14-6 http://www.iwate-ryuiki.net/
盛岡本町振興会	盛岡市本町通 1-16-1 カメラのキクヤ内 さけの赤ちゃん放流会の実施
中津川勿忘草を育てる会	盛岡市山岸 1-8-12 市内幼稚園・小学校で中津川の総合学習を実施

⑨川を楽しむために



中津川は浅いので、水の中に入りやすいよね。
でもやっぱり危険もあるし、自分だけでなくみんなが
楽しめるように、マナーをまもる必要もあるんだ。

川へは、一人で行かず、
お父さんやお母さんなどの大人と
いっしょに行こう

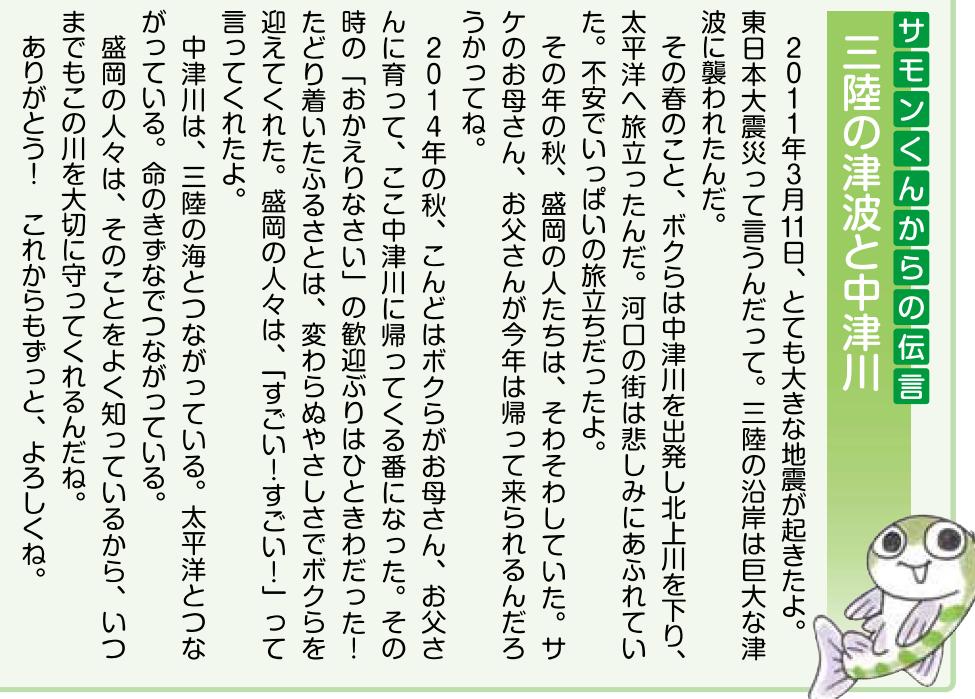
みんなが気持ちよく
過ごせるためにゴミは持ち帰ろう

川の水が、増える時は
すぐに川から出よう

他にも安全に
川を楽しむ
ルールがあるから
みんなで学んでね！

検索／子ども水辺サポートセンター

検索／川に学ぶ体験活動協議会



2011年3月11日、とても大きな地震が起きたよ。東日本大震災って言うんだって。三陸の沿岸は巨大な津波に襲われたんだ。

その春のこと、ボクらは中津川を出発し北上川を下り、太平洋へ旅立ったんだ。河口の街は悲しみにあふれていた。不安でいっぱいの旅立ちだったよ。

その年の秋、盛岡の人たちは、そわそわしていた。サケのお母さん、お父さんが今年は帰つて来られるんだろうかってね。

2014年の秋、こんどはボクらがお母さん、お父さんに育つて、ここ中津川に帰つてくる番になつた。その時の「おかえりなさい」の歓迎ぶりはひときわだつた！たどり着いたふるさとは、変わらぬやさしさでボクらを迎えてくれた。盛岡の人々は、「すじごーすじごー！」って言つてくれたよ。

中津川は、三陸の海とつながつてゐる。太平洋とつながつてゐる。命のきずなでつながつてゐる。盛岡の人々は、そのことをよく知つてゐるから、いつもこの川を大切に守つてくれるんだね。

ありがとうございます！これからもずっと、よろしくね。

盛岡市民30万人が住む都会の中で、サケの赤ちゃんが生まれる中津川。きれいな花が咲き、魚や鳥や虫などたくさんの生き物がいて春夏秋冬いつも楽しみがあります。川を流れる心地良い水の音も聞こえます。何よりも盛岡の人みんなが愛し大切に守っている川なのです。



②ボクが生まれるまで ①産卵

ボクはどんなふうにして生まれてきたんだろう?

お母さんとお父さんは

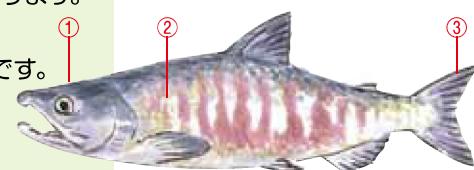
どんな姿だったんだろう?



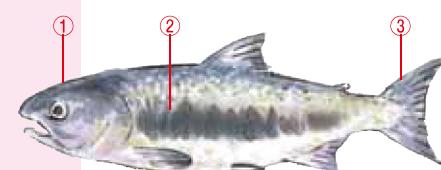
オスとメスの区別

サケのオスとメスは、子ども(稚魚・若魚)の時も、大きくなった(未成魚)時もほとんど同じに見えます。ところが、川にもどるころになると変身(成魚)し、オスとメスの違いが、ハッキリしてきます。そのポイントを紹介します。

- オス
- ①頭は大きく、鼻先が長くとがって曲がります。
(「南部鼻曲がり」とも言われています)
 - ②もようは、赤紫・黒の細かいしまもようです。
 - ③尾びれの切れ込みは三角形です。
 - ④行動は、せわしなく動き回っています。



- メス
- ①頭は丸く、鼻先は短いです。
 - ②もようは、1本の黒いしまもようです。
 - ③尾びれの切れ込みは丸いです。
 - ④行動は、川底を尾びれで掘り返し
時々お腹が見えます。



産卵のドラマ

盛岡市内では、秋～冬になると海からサケがもどって来ます。川では、サケが大きな体を動かしているようですが観察できます。これは、中津川で産卵しようとする行動です。

毎年同じような場所で産卵していますので観察してみましょう。

なお、橋から見る時は、通行する車に十分注意してください。



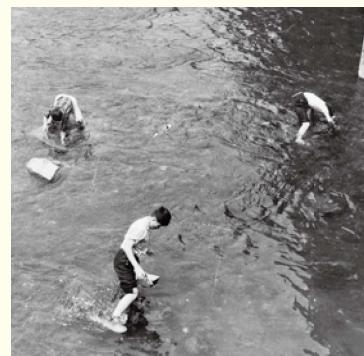
これが産卵場だ!



川底の石が白くなったり
ところがあります。その場所が、サケが産卵場にしたところです。

中津川の思い出

盛岡市山岸にお住まいの 越戸國雄さん



かじか取り 昭和37年

一番記憶に残っているのは、小学2年の時、祖父に鰻捕りを教わり、コップくらい太い鰻を2本捕ってその後鰻捕りに夢中になったこと、小学4、5年の頃には水中ピストルを作つて鮎や雑魚をいっぱい捕つたこと、田植えの頃には群衆瀬(※)を作り、友達と夜まで魚を追っかけたことです。6月の梅雨時、川が増水し古材の筏で川下りをしたり、両岸の石垣まで水がある時に川を泳いだこともなつかしい思い出です。(※)ウグイをとるために石を並べたしかけ。

盛岡市浅岸にお住まいの 寺井良夫さん



川遊び 平成24年

夏の暑い日にする川遊びほど子どもたちがワクワクする遊びはありません。川底の石を積み上げて小さなダムを作つたり、タオルを使って小魚をすくいあげたり、ちょっと勇気を出して流れの速い川の中ほどまで行ってみたり。今でもそんな子ども達の遊ぶ姿があちこちで見られるのが中津川です。

東京都東村山市にお住まいの 中村桃子さん



さけの赤ちゃん放流会 平成25年

本町の「さけの赤ちゃん放流会」は、1994(平成6)年に始まりました。私は、その第1回目のとき仁王小5年で、地元子供会として参加。「無事に帰ってきてね」と願う一方で、食べるイクラも大好きな自分に落ち着かなかった気持ちを思い起します。

放流会を通して、暮らしのすぐそばの素敵な自然に気付きました。いま盛岡を離れて4人の子育て中ですが、わが子にも身近な自然から命の繋がりを体験してほしいです。

⑧ 中津川の昔と今

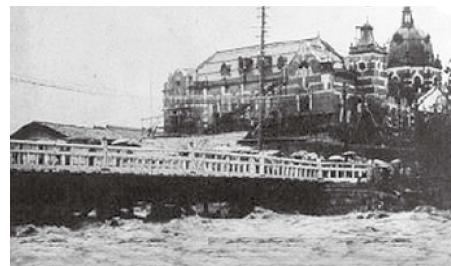
中津川は、自然も豊かで、
昔の子どもたちは、色々な遊びをしていたよ。
しかし、一度、暴れ出すと恐ろしい川に変身。



中津川でも洪水が起きるよ

いつもは、ゆるやかな流れを見せる中津川、でも、大雨が降ると恐ろしい姿になります。明治43年(1910年)の大洪水は、中津川の5つの橋を流し、堤防がこわれるなど大きな被害がありました。また、最近では、平成14年7月の台風6号で堤防近くまで水が上がり大きな被害が発生するところでした。

今でも、川はいつ暴れ出すか分かりません。



明治43年の台風による洪水(中の橋付近の写真)
この橋も崩れて流れました。



中津川治水碑
(下の橋付近)
明治43年の大洪水の様子とその後の工事の記録が記されています。



そうだったんだ。
中津川が暴れだすなんて
考えもしなかった。
そしてこんな遊び方もあるんだ!
できれば中津川のいろんな思い出を聞いてみたい!



平成14年出水時の中津川

サケの産卵行動



メスは、鼻先を川底につけて産卵場所となる“わき水”がある場所を探します。



“わき水”がありそうなところを試しに掘ります。



良い場所が見つかると、どんどん掘ります。



オスはメスよりも多くそじょうしてくるため、メスのうばいあいでケンカを始めます。



卵が流れ出さないように、掘った穴の深さをしりびで測ります。
(10~15cmぐらいの深さ)



ケンカに勝ったオスは、体のもう方はつきりし、メスにアピールして“つがい(夫婦)”になります。



メスが産卵し、オスが精子をかけます。
この時、オスメスともに口を開けるのが特徴です。



メスは、尾びりで優しく穴を埋めます。

●このあとのメスとオスの行動は?

- ・メスは、産卵を数分おきに4~5回行います。オスは、また新たなメスを探しに行きます。
- ・産卵行動を終えたサケたちは、やがて力つきて死んでしまいます。

③ボクが生まれるまで ②卵から稚魚へ

ボクの体の長さはいま 4cm。

ボクが卵から稚魚に成長するまでには、
どんなドラマがあったんだろう？



卵のはなし

サケの卵は、冬のあいだ川底の砂利の中で成長します。産卵から1か月たつと、卵の中に黒い目が見え、約2か月たつと、卵の中でくるくると赤ちゃんが動いています。やがて卵から顔を出す時がおとずれます。



サケの卵・黒いのがサケの目玉

●卵の大きさ

卵は6~8mmくらいの大きさです。卵の大きさは、親のからだの大きさとは関係しません。特にサケは冷たい川の中で生まれ成長するため、他の魚たちと比べて大きな卵を生みます。それは、生まれてくる赤ちゃんができるだけ大きくして、きびしい環境の中で生き残っていけるようにするためです。

●卵の固さ

サケの卵は、母サケのお腹の中にあるときには柔らかいのですが、それが産卵後、川の水に触るとかたくなり、ゴムマリのように変化します。これは川の流れや周りの石などで卵が傷つかないための、不思議な仕組みです。

サケとタラの卵と親の大きさの比較



★サケの大人は
70cmぐらいです。



★スケトウダラの大人は
70cmぐらいです。

☆卵は6~8mmで、およそ 3000 粒です。 ☆卵は0.5~1mm程度で、およそ 20~30万粒です。

サケは、卵を大きく生み赤ちゃんが十分に育ってから泳ぎだせるようにしています。しかし、同じ大きさ（成魚・70cm）の海にいるスケトウダラは、小さな卵をたくさん生みます。これは、他の生き物に食べられても生き残ることができるようにしているからです。同じ大きさの親から生まれる卵でも育っていく環境でちがいます。



中津川にすむ その他の生き物たち



カジカガエル



カワニナ



ヌカエビ



ヒラタカゲロウの幼虫



カワゲラの幼虫



ヒゲナガカワトビケラの幼虫



コオニヤンマの幼虫



ゲンジボタルの幼虫

⑦中津川にすむ生き物たち

中津川にはボクたちサケだけでなく、ほかの魚や昆虫たちもすんでいる。いったい、どんな生き物たちがいるんだろう？



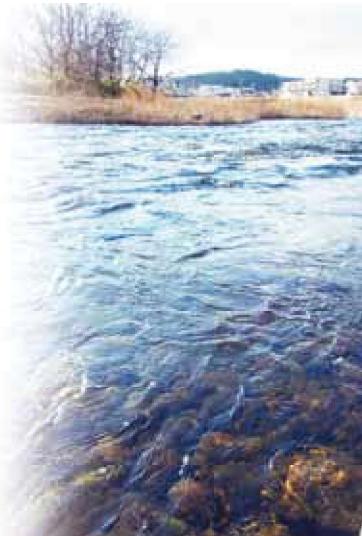
中津川にすむ水生動物

中津川では、定期的に魚類調査がおこなわれています。その結果、サケ、ウグイ、アユ、カジカなど多くの魚が確認されています。このうち、スナヤツメ、タナゴ、カジカは、全国的に絶滅が心配されている魚です。キレイな中津川だからこそ見られるのかもしれません。

いま、全国の湖で問題になっているブラックバスやブルーギルは、ほとんど中津川では見られていません。これらが入ってきたら、卵や稚魚が全滅する恐れがありますから、ぜったいに入れないようにしたいですね。

魚の他にもトンボ、カゲロウ、カワゲラ、トビケラ、ゲンジボタルなどの幼虫やカワニナなどの巻貝も見られます。カワニナはホタルのエサになりますから中津川でもホタルがみられます。

浅岸橋上流の加賀野待堰周辺では、毎年6月ごろ、ゲンジボタルの美しい光が瞬きます。



中津川にすむ魚たち



アユ



サクラマス



ヤマメ



イワナ

ふ化がはじまった

卵の中から出たときのサケの赤ちゃんの大きさは約3cmです。

赤ちゃんのおなかには、大きな“ふくろ”がついています。これは自分でエサが取れるようになるまでの間の、栄養分がたっぷり入ったお弁当箱のようなものです。うまく泳げるようになるまでの約2か月、川底の砂利の中で成長します。



盛岡市立仁王小学校で生まれた
サケの赤ちゃん

★サケの卵や赤ちゃんの成長に大切な「わき水」のはたらき★

- ①サケの卵や赤ちゃんに酸素をたくさん供給してくれます。
- ②1年を通して水温の変化が小さいので、真冬のきびしい寒さの時でもサケの赤ちゃんが育つ良い環境を与えてくれます。

川の中の“ゆりかご”



サケの赤ちゃんが川の中を泳ぎはじめると、外敵に狙われやすくなります。そのため、水ぎわの植物の間や流れがゆるやかな淀みで身をひそめてくらします。このような場所では、赤ちゃんが成長するためにちょうどいい大きさのエサも豊富です。中津川には、赤ちゃんが安心して成長できる“ゆりかご”的な場所がたくさんあります。



こぼれ話 サケの卵を狙うヤマメやウグイたち



サケの産卵の時期に川をのぞいてみると、ヤマメやウグイなどの魚が集まって泳いでいることがあります。ヤマメやウグイたちが、産卵しそうなサケのメスのまわりに集まり、生まれたとたんに卵を食べようとしているからです。

④ ボクの長い旅

ボクはこれからどこに行くんだろう?
また中津川にもどって来られるかな?



回遊10,000km



中津川で生まれたサケの子どもは、春に中津川を出て北上川を下り、数十日後には宮城県石巻市の河口に着きます。

海に出て、海の水に体を慣らしたサケは、北太平洋へ出でていきます。北海道の東を北上して、オホーツク海に入り、夏～秋を過ごします。冬になると、カムチャツカ半島の東を北上、そこでアラスカ海流に乗って、夏にはベーリング海に達します。

次の年になると冬に南下して東へ進み、アラスカ湾に入って、アラスカの東海岸沿いに北上し、夏にふたたびベーリング海にもどってきます。この移動を2～4年間くりかえして成長したサケは、やがてふるさとの川へもどる旅をはじめます。

ベーリング海からは、カムチャツカ半島の東を通って、まっすぐに三陸沿岸にもどります。そして石巻市周辺の海から北上川に入り、200kmもさかのぼって、ふるさと中津川に帰り産卵して、10,000kmの回遊の旅を終えるのです。

多くのサケがもどれる中津川に



中津川の一斉清掃



オオハンゴンソウ
駆除大作戦！

●さけの赤ちゃん放流会（本町振興会）

中津川の近くにある商店街の本町振興会では、誰でも参加できるサケの稚魚の放流会を行っています。また、商店や近隣の小学校、幼稚園などで卵からサケの稚魚を育てる活動もしています。

「さけの赤ちゃん放流会」は、毎年3月の第2土曜日、上の橋の近くで行います。2017年3月で第23回を迎えるました。



毎年3月に行われる放流会



盛岡市立仁王小学校での飼育



こぼれ話 北上川上流でのサケ漁

中津川などの支流では、浅瀬を利用し水中に一本の縄を張り、オトリのメスのサケを泳がせ、そのメスに集まるオスのサケが縄をゆらした瞬間を網で採る漁法がありました。

また、メスのサケに集まるオスのサケを引っ掛けで採る「サケ鉤」という漁法もありました。なお、今はサケを採るには特別の許可がいります。



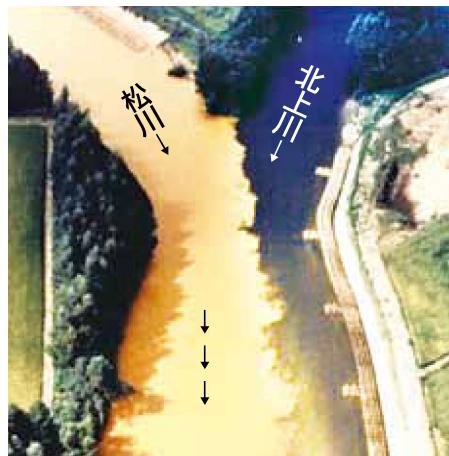
サケ鉤

⑥安心できる中津川

ボクたちが大人になって
ここに戻ってこられるように、
たくさんの人が守ってくれているんだ。



中津川にサケがいなくなったとき



赤く濁った北上川・松川の合流点
(昭和 49 年)

今から 80 年ほど前の昭和 10 年ごろから、北上川の水が汚れはじめました。この汚れは、北上川の上流にある松川から流れ込んでいたのです。

松川には松尾鉱山があり、イオウをとりだすときの水が川に流されたためでした。そのため、昭和 15 年ごろ、キレイな水を好むサケやマス・アユ等が北上川から姿を消しました。さらに昭和 37 年ごろには、汚れに強いウグイも姿を消しました。

汚れた北上川を、サケがのぼらなくななり中津川がキレイでもサケの姿が見られなくなってしまいました。

中津川にサケがもどってきた！

昭和 47 年、松尾鉱山は採掘をやめました。「きれいな川に戻したい」との市民の声を受け、国・県・企業・市民らが手をとりあって水質改善に努力しています。

今では水質がよくなり、中津川にもふたたびサケ、アユ、ヤマメなどが姿を見せたのです。



“川”で生まれて“海”で成長し、また“川”にもどるのはなぜ？

大むかし、サケの祖先は川で一生をすごしていました。しかし、海にたくさんの食べ物があるため、海に行き大きく育つようになりました。しかし、卵を生むためには再び川にもどってこなくてはなりません。そのため、サケは卵を生むためにふるさとの川にもどってくるのです。



群れるサケたち



サケのオスとメス



与の字橋周辺から、もどって来たサケを見る人々

でも、どうして“ふるさとの川”に帰れるのか、まだ充分に分かっていませんが、生まれた川のニオイを忘れないで帰ってくると考えられています。サケを迷子にしないためにも、中津川の環境を守り、ニオイがわからなくなるないようにしましょう。



中津川を泳ぐサケたち

こぼれ話 魚の通り道・魚道

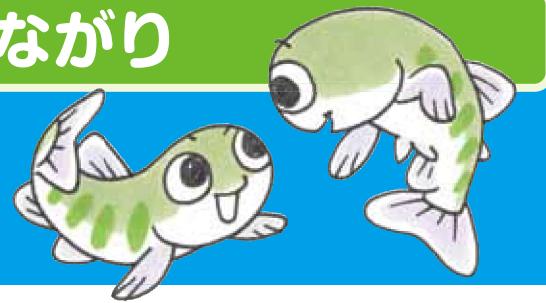


昭和 54 年完成、北上大堰の魚道

北上川には、私たち人間の生活に欠かすことのできない水を確保するための堰があります。しかし、この堰は、川をさかのぼるサケやアユには障害となります。そこで、堰には、魚がのぼれるように魚の通り道（魚道）が設けられています。

⑤いのちのつながり

ボクを生んだあと、
お母さんやお父さんは
どうなったんだろう？



山・川・海へとつながっている、 サケの食物連鎖

サケの死がいは、カラスや哺乳類のエサとなり、これらのフン等が森の栄養分となり木々を育て、豊かな川を育みます。

